

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

非核の政府を求める石川の会

第二四回総会 議案

日時 六月九日(土) 一三時半～
会場 近江町交流プラザ四階研修室

□二〇一一年度活動報告□

○はじめに

・三・一一東日本大震災、大津波による東京電力福島第一原発の過酷事故がもたらした放射能汚染と放射線被害の深刻なひろがり、原子力の「安全神話」の欺瞞と原発の危険性を明らかにした。原発に依存した社会のあり方を問う国民的議論が高まるなかで、非核・石川の会にも会の活動目標(非核五項目)に「脱原発・原発の廃止を求め」を追加してはどうかとの意見が寄せられ、次の見解をまとめた。

○非核の政府を求める会の設立趣旨は、核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める政府をつくることである。核兵器と原発の関係に留意し、原子力の軍事利用に反対するとともに、原発依存からの脱却と自然エネルギーへの転換を要求する運動と

の連帯を強めていく。

・第二三回総会にて石川県原爆被災者友の会から「非核三原則の法制化を求める地方議会請願」への支援要請があった件では、次の見解をまとめた。

○非核三原則は、一九七一年核付き沖繩返還反対運動に対応する国会の決議として「国是」になった。米国の核兵器持ち込みに協力・加担している日本政府の行為を法的に規制するためには法制化が必要不可欠である。法制化を求める地方議会請願に賛同し、原爆被災者友の会と協力して県内自治体への請願に取り組む。

・上記の外、本年度の特徴的な活動として、非核・平和行政に関する県内自治体アンケートの実施や会報「非核・いしかわ」の紙面充実をはかったことが挙げられる。

(1) 日本大震災・福島第一原発事故関連

・国会請願署名「原発からの撤退を求める署名」及び石川県知事あて「志賀原発総点検とエネルギー政策転換を求める署名」に取り組んだ。

・県原爆被災者友の会や石川反核医師の会ら五団体、北陸電力志賀原発の再稼働を認めないよう石川県知事及び北陸電力に要請した内容を会報

非核5項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。



人間の死体をプラストミックという製法で加工した標本を商業展示した「人体の不思議展」(以下、人体展)は、これまで三六自治体で開催された。県内でも二〇〇五年と二〇一〇年に人体展事務局と北國新聞社の共催により金沢二一世紀美術館で開催された▼遺体を金もうけのために見せ物にすることは死者の尊厳を損ない冒瀆する行為である。二〇一〇年の金沢展と京都展では、医療団体がごぞつて開催中止を求める声明を出し、刑事告発と民事訴訟を起こしたことが報道された▼このような反対運動を背景に今年三月、日本医師会の生命倫理懇談会が人体展は「遺体の扱いにおいて人の尊厳に反し、倫理的に求められない」とする見解を表明し、その後には人体展HPは同展の閉幕と人体展事務局の解散を宣言した▼人体展の閉幕宣言は、運動の大きな成果である。さらに人体・死体の尊厳を損なう行為の再発防止のために、これまで共催してきたマスコミはじめ、後援に名を連ねてきた日本医師会などの医療関係団体や自治体は、過去の経緯について真摯に検証し、反省と謝罪を表明すべきである。(か)

で情報提供した。

・福島第一原発事故に関する会員寄稿や講演要録等を順次会報に掲載した。

(2)核兵器禁止条約の交渉開始に向けて

・「核兵器全面禁止のアピール」署名に取り組み、全国で一〇二万九〇三一筆(目録)と七六六首長、五五七議会議長の署名(実物)を二〇一一年一月、国連軍縮会議に提出した。

・米国オバマ政権が未臨界実験を繰り返していることに嚴重抗議する(抗議声明)を米国外務省あてに送付した(七月二五日)。

・「核兵器のない平和で公正な世界」の実現をめざして開かれた原水爆禁止二〇一一年世界大会に尾西洋子常任世話人を代表派遣し、石川県から三十八人が参加した(八月七日〜九日、長崎)。

・米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く日本をめざして開かれた二〇一一年日本平和大会に尾西洋子常任世話人を代表派遣し、石川県から一〇人が参加した(二月二五日〜二七日、沖縄)。

・「本土復帰四〇年、基地のない沖縄を」の新聞意見広告の安保破棄石川県実行委員会からの呼びかけに賛同し、団体募金に協力した(琉球新報・沖縄タイムス・朝日新聞五月二五日付に掲載)。

・「治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求め請願」(団体署名)に賛同し、協力した。

・石川反核医師の会総会記念企画「被ばく証言を聴く会&ナターシャ・グジーコンサート」に後援(六月一〇日午後二時、県教育会館ホール)。

・「悪魔の飽食」全国縦断コンサート石川公演に後援し、プレ企画の「悪魔の飽食」講演会要録を

会報に掲載(石川公演は六月一七日午後二時、県立音楽堂コンサートホール)。

(3)平和行政に関する自治体アンケートの実施

・平和行政の予算額、事業内容、平和市長会議への加盟状況等につき県内自治体アンケートを初めて実施した。全ての自治体が非核・平和宣言を挙げているが、平和行政の予算計上している自治体は少なく、平和市長会議の加盟は五、日本非核宣言自治体協議会の加盟は三に留まっている(アンケートの集計結果は本号付録で報告)。

(4)会報「非核・いしかわ」の編集と発行

・総会以降、第一回常任世話人会で会報編集委員五人を任命し、集団編集体制を確立した。会報は毎月二〇日発行を励行している。

・市民団体の機関紙には「報道、評論、文芸、読者の意見」の四つの機能がある。この一年、非核・平和をめぐる最新情報の報道、評論とともに、文芸欄(叙事川柳、絵手紙、詩)が充実し、会員エッセイも好評である。

(5)組織・財政報告

・個人会員は一三五人で現状維持。核戦争を防止する石川の会が非核・石川の会に団体加入し、団体会員は一五となる。

・常任世話人会は隔月開催、会報編集委員会は毎月開催し、会務を執行している。

・財政事務処理は事務局次長が担当し、執行状況を常任世話人会に適宜報告、会費入金の協力を得改善された(財政報告は総会当日配布)。

□二〇一一年度活動方針案□

一、非核・平和をめぐる今日の情勢と課題

(1)「核兵器のない世界」に向けて、すみやか核兵器廃絶交渉を開催させるために

●二〇一五年NPT再検討会議に向けてウイーンで開かれた第一回準備委員会では、最終日の五月一日、前回の再検討会議で合意された核兵器の完全廃棄への具体的措置を含む六四項目の行動計画を着実に進める必要性を強調するなどの議長総括をまとめた。

●世界の核兵器保有量が最も多かった一九八六年には、米二万四千発、ソ連四万五千発など約七万発の核兵器が保有されていた。その後一九九一年のソ連の崩壊と冷戦構造の終焉、「核兵器の世界を」の国際世論のひろがりにより、二〇一一年では二万五千発まで減少している。

(2)問われる 被爆国・日本政府の役割

●日本政府の「核四政策」とは、①非核三原則を遵守する、②核兵器の不拡散から核軍縮、そして究極的には核廃絶へ、③米国の「核の傘」⇐「核抑止力」に依存する、④核エネルギーの平和利用の推進である。非核三原則と「核の傘」への依存には根本的な矛盾がある。国是である非核三原則には法的な拘束力がなく、政府が核密約を結んで核兵器持ち込みを容認していても違法性を問うことができない。日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)や日本弁護士連合会等が提案している「非核三原則の法制化」が重要な課題になっている。

核エネルギーの平和利用は、一九五三年当時の

冷戦構造のなかでアイゼンハワー米大統領が日本への核持ち込み、日本からの核出撃態勢の確立のため、核兵器産業の副産物として実用化した原発を「アトムズ・フォア・ピース」として推進したものである。安全性は二の次の核の軍事利用の副産物＝原発の危険性は明らかである。

●原発は「潜在的核抑止力」になる？

原発推進の根拠として読売新聞の社説では、「日本は：核兵器の材料になりうるプルトニウムの利用が認められている。こうした現状が外交的には、潜在的核抑止力として機能している」(二〇一一年九月七日付)、石破茂・自民党政調会長(当時)は「原発を維持するということは、核兵器をつくろうと思えば一定期間のうちに作れるという『核の潜在的抑止力』になっている」(半月刊誌「サビオ」二〇一一年一〇月五日号)。

●憲法改悪をめぐる最新動向

民主党政権が国会提出を狙う秘密保全法案は、「国の安全」「外交」「公共の安全及び秩序の維持」に関わる情報を国家統制下に置き、国民主権にもとづく国民の知る権利を侵害する恐れがある。

四月二七日、自民党が新たな憲法改正案を発表した。新改憲案では、①憲法前文から侵略戦争への反省や平和的生存権を削除し、②戦力不保持・交戦権を否認した九条二項を削除、③自衛軍を国防軍と位置付け、自衛権の保持を追加、④大規模災害時やテロなどの場合、首相の権限を強化し、国民の権利を制限できる「緊急事態条項」を新設した。同日、衆参対等統合一院制国会実現議員連盟が、二〇一七年から国会を定数五〇〇人以内の

一院制とする憲法改正原案を国会に提出した。

衆参両院で憲法審査会が始動している最中で自民党の新改憲案や二院制の改正法案の国会提出であり、憲法改悪を阻止するため、「国民の不断の努力」が問われている。

●被爆国として日本政府がなすべきこと

①核兵器全面禁止条約の締結に向けた交渉を速やかに開始するため、国連総会にて、被爆国であり憲法九条をもつ国に相応しく、核兵器廃絶の先頭にたつこと。

②核兵器の存在と使用を是認する「核の傘」＝「核抑止」政策からの脱却を国際社会に宣言すること。

③非核三原則を実行するため「非核法」を制定すること。日米「核密約」について改めて徹底的に調査し破棄すること。

二、二〇一二年重点課題

(1) 平和行政の発展のため自治体への働きかけ

・非核・平和行政に関する県内自治体アンケート結果にもとづき、計画的に自治体訪問を行い、平和施策の予算化や平和市長会議、日本非核宣言自治体協議会への加盟など働きかけていく。

(2) 原子力政策の学習など行いながら、他の非核・平和運動との連帯強化

・核兵器廃絶とともに原発に依存しない社会をめざし、原発ゼロを求める運動との連携を強化する。
・北陸電力志賀原発の再稼働を許さない世論と運動に協力する。

(3) 非核・平和の日本実現のために、原水爆禁止二〇一二年世界大会(広島大会)への代表派遣

・非核三原則の法制化を求める議会請願を原爆被

災者友の会と協力して取り組む。

・福島原発事故により、放射線被害の深刻さが実感され、核兵器廃絶をめざす運動への新たな理解がひろがっている。「核兵器全面禁止のアピール」署名を広げ、原水爆禁止二〇一二年世界大会の成功をめざす(八月四日～六日、広島)

・二〇一二年日本平和大会に代表派遣する(二月二三日～二五日、東京)。

(4) 被爆の実相の普及、被爆者との連帯強化

・核兵器の非人道性、被爆の実相を次の世代に伝えることは、核兵器廃絶の世論と運動をひろげるうえで重要である。

・被爆の実相をひろめるために県内小中学校に漫画「はだしのゲン」の寄贈運動をすすめている石川反核医師の会、県生活協同組合連合会等の取り組みに協力する。

・日本被団協が新たに制作した被爆写真パネル(ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間)の活用、普及に努める。

(5) 会の組織的強化のために

・会報「非核・いしかわ」の定期発行により、非核・平和を求める活動の紹介、会員の投稿(リレーエッセイ)等を通じて、個人会員及び団体会員の増加に努める。
・活動の発展に伴う財源確保のため、会員増加とともに、会費納入率と募金協力者の増加に努める。
・事務局体制を強化する。

二〇一二年子どもの日

原発ゼロの日を迎えて

中村照夫

二〇一二年五月五日、私にとって実に感慨深い日となった。

一九八一年八月深夜、私は新潟県巻町の「公開ヒアリング阻止」闘争の中にいました。労働組合を中心に数千人が結集した闘争であった。私は石川県評青年部の仲間とともに参加したのだ。阻止闘争は延べ三日間を費やし、私の記憶では八時間しか寝ていない。監視、行動、集会、座り込み、抗議などの繰り返し。労働者のエネルギー、団結の素晴らしさ、住民とのふれあいに充実感を覚えた闘いであった。私はもともと原子力にはあまり抵抗感がなかった。手塚治虫のアトム世代だからだろうか。事実、一九七〇年の大阪万博で原子の火（敦賀原子力発電所）が灯ったことに感激もした。社会人となったある日（一九七五年ころ）、石川県職員労働組合が開催する学習会に「京都大学の原子力学者がくる」という話を聞き、興味半分で参加した。これが、その後の原子力に対するイメージを転換させたのです。小林圭二氏は、「原子力は未来のエネルギーだ」と期待に胸をふくらませて入学した。しかし、研究すればするほど危険なもの、安全性を確保できないことを知り、反原発に舵を切ったという。これに驚き、私は質問しました。「自然界の放射能と原発から出る放射能と違うのですか」と。答えは「同じ」というものでした。つまり、危険は同じと。

このときの小林先生の「澄んだ目」、まじめな口調に「この人は真剣だ」と思い、これ以来、原発の構造、問題点、放射能の怖さ、核兵器、核燃料サイクルなどを勉強しました。たぶん、青年部時代で一番勉強したのではないかと思います。なぜなら、物理学や化学の分野は勉強しなきゃ分らないと観念したからです。

（注）ウィキペディアより：小林圭二氏は京都大学工学部原子核工学科卒業。京都大学原子炉実験所助手を経て、二〇〇二年に同講師。二〇〇三年定年退職。当初は、原子力発電の実用化を推進する立場で研究していたが、やがて批判に転じます。

この時期、総評は「反」原発闘争を大々的に展開し、石川でも「能登エネルギー基地化」反対闘争が山場を向かえていた。職場での「反原発」学習会は普通の取り組みであった。連合結成前の八八年八月に行われた小松基地包囲闘争までの間、石川県評の「反戦・反基地・反原発」闘争は、社会的意義が大きかったと思う。

しかし連合発足以降、労組の結束は「表面的」となり、「反戦・反基地・反原発」闘争は皆無となった。その中で原発は次々と建設され、地震国日本に五四基も林立する事態となってしまった。そのような中、二〇一二年三月一日福島第一原発事故は引き起こされたのです。

この事故は県平和運動センター事務局長の私にとっても衝撃でした。まさか「この日本で過酷事故が起こるなんて」というのが本音でした。スリーマイル島事故（一九七九年三月）を経験し、チェルノブイリ事故（一九八六年四月）まで経験したのに。

このことは、原子カムラ（原発推進派）による「方式・型が違う」「人為的ミス」という説明に騙された結果でもあるのです。

それゆえ三・一一以降の「脱原発」運動は、「安全神話」に汚染された自らを主体的に総括しつつ、「志賀原発を動かすな」「再稼働させずに廃炉へ」を掲げ、多くの市民と連携した「幅広い」戦線を作ることが要となりました。その成果は徐々に現れ、七・二四集会の大成（三千人の結集）や一連の「さよなら！志賀原発」集会の成功につながったものと確信します。

いま五月五日、原発は稼働ゼロとなった。三・一一以降、一基の原発の再稼働も許さなかった全国の「脱」原発運動の一つの到達点であり、成果と言えます。

しかし正念場はむしろこれからだ。六月一日（日）には、再度金沢で「さよなら！志賀原発」実行委員会主催の「大飯を止めて、原発ゼロに！」集会を中央公園で開催します。こぞって参加を。

再稼働勢力の巻き返しは必死であり粉砕しなければなりません。そして、脱原発社会をなんとしても実現しなければなりません。原発を止めても、核・放射能の危険性は消えませんが、使用済み核燃料の処分問題と全ての核兵器を廃絶しなければ、「脱原発」「原水禁」運動は完遂しないと考えています。未来の子どもたちに放射能と核を残さないためには、あともう一步の踏ん張りが必要です。労働運動の「再構築」もかけた闘いとともにも。

保団連原発問題学習交流会・報告

脱原発、エネルギー政策の転換に向けて

西川忠之

四月二二日(日)、東京・新宿農協会館にて開かれた保団連原発問題学習交流会について報告する。

三・一一福島原発事故後一年が経過した。交流会では、この一年間で行なわれた都道府県各協会それぞれの原発事故への対応やその後の取り組みについての報告がなされた。記念講演として、「脱原発と地球温暖化対策の両立は可能であるー日本のエネルギー政策の転換に向けて」と題して、島根大学法文学部教授上園昌武氏による講演も行われた。

開会にあたって保団連公害環境対策部長野本哲夫氏による学習交流会の開催目的が述べられた。今なお事故の収束にはほど遠く、放射能汚染は国民を不安に陥れている。しかし、政府は昨年末に国民に受け入れのないうままに事故収束の宣言を行い、原発の再稼働に向けた動きを強めている。以上の現状認識のもとで、脱原発、エネルギー政策の転換に向け会内の合意をはかり、今後の運動推進に向けた意思統一の場としたいと挨拶した。

まず、被災県である福島協会から、副会長長松本純氏が特別報告を行った。全国からの支援に対して謝辞をのべられ、事故後、語り尽くせないほど多くの問題がある中その一部につき報告をいただいた。飯野町民体育館避難所でのこと、原発目前の町から避

難のおばあさま「あったかい牛乳が美味しかったです。もともと私は牛乳が飲めなかったんです」「ガソリンが無くて集配のトラックが来ない。しかし、搾らないと牛がさわぐから」しかし、二日後牛乳は・・・。事故当時、緊急避難先を追いかけるように放射線が拡散した。SPEEDIを生かせず。原発立地を維持し、住民の安心を買うための見せ玉にすぎなかったと原発民間事故調査調が政府の組織防衛的な無責任ぶりを非難した。

医療の分野として、平成二三年八月二日現在、福島県内の医療機関(薬局、被災の不明の医療機関は除く)の被害総額は一一四億七千万円と推定された。さらに、県内医療機関からの医療従事者の離職と流出が深刻で、南相馬市の四病院では常勤医師数が約三分の二に、看護師数が半数以下に減少し、他地域でも家族の分断が深刻で、医師看護師の離職が問題となっている。

全県民対象の県民健康管理が開始され、昨年末までの累積外部被曝線量の推計結果が発表された。放射線業務従事者を除く九七四七名の調査にて、一〇mSv以上の外部被曝者は〇・七三%、五〜一〇mSvは四・七%、〇〜五mSvは九四・一%(内、一mSv未満は五七・四%、一〜一mSvは一一・四%)であった。松本氏自身は五〇km離れた自院内でのフィルムバッチの示した外部被曝累計は一二月末で二・三mSv/年であった。

今後福島県下での全数調査による健康診査や甲状腺超音波検査が予定されているが、大変な労力となる。さらに、被災者の医療費が無償化されているにもかかわらず、岩手、宮城県の沿岸五病院での

外来患者数は三%減少し、交通の便が悪いため受診を我慢する傾向が認められ、重症化による救急患者が四五%増加したと報告された。

その他協会からも次々と、反原発、震災復興の決議や集会、キャンペーンバッチやシールの製作、政府への要望書、請願署名運動やアンケート調査、原発差し止め訴訟の原告団に加わるようキャンペーンや健康相談会の実施等が熱心に行われた実績が報告された。

石川協会からは、市民公開講座「原発・いのち・未来」の紹介をした。また、石川保険医新聞のザ・公衆衛生シリーズによる内部被曝の問題点と低線量被曝の危険性の認識、当協会事務局による福島訪問や復興に向け住民本位の情報発信を継続している活動、原発の危険から子どもを守る北陸医師の会吉田均氏(会員)の報告記事等を紹介した。

特別講演では、上園氏がフクシマ後、エネルギーをどう転換すべきか? 原発撤退にてCO₂排出量二五%の削減は可能か? マクロ経済への悪影響はないのか? の根本的な問題につき、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 CASSA2020 ハイフレ (Ver. 3) *を用いて、経済学の見地から、エネルギー消費やエネルギーバランスからマクロ経済モデルの検討を行った。その結果、エネルギー利用のあり方について哲学・倫理の観点から徹底的な議論をすべきではあるが、脱原発、脱石炭を進めながらも、省エネとエネルギーシフトでCO₂の二五%削減は十分に実現可能である。さらに、温暖化対策によるマクロ経済への悪影響は軽微で、グリーン・ジョブを創出し経済波及効果も見込めると結論づけた。

閉会にあたり、「政府は原発からの撤退を決議し、国内すべての原発を廃止し、日本のエネルギー政策を転換すべきである」と決議した。

(石川県保険医協会理事)

(参考)

*CASA2020 モデル <http://www.bnet.jp/casa/>

非核いしかわの会 リレーエッセイ

西大門刑務所訪問

亀田 良典

二月初め日中でも零下一〇度以下、五〇年ぶりの寒さだと現地の人も驚いた韓国に家族で出かけました。韓流ドラマにはまる両親にロケ地で楽しんでもらおうと子どもたちが企画したのですが、折角の機会、無理を言つて、ソウル市の中心部にある西大門刑務所歴史館をみんなで訪問しました。これまで仕事と観光で訪問したソウルですが、行き先が刑務所跡とは出向かえたガイドも驚いていました。

日本の天皇制政府による侵略が加速化し、これに抵抗する人々を弾圧するため、一九〇八年一〇月に監獄が造られました。一九一〇年の朝鮮への軍隊の派兵で「併合条約」をおしつけ、植民地化する過程と共に収容される人は増え、全国で、〇八年の二千四百余から一九四五年には二万三千人以上の収監数になりました。その中心が西大門刑務所です。入口の施設配置図で概略をつかみ、各部屋に。日本政府による残虐な行為の説明には日本語がなく、ハンブルと英語しかなく、英語で概略をつかんで進

みました。二階には、民族抵抗室として、独立運動家の肉声証言や五千人もの受刑者の写真・年齢・住所記録などのコーナーも。十代の若者や女性の写真もありました。地下の拷問室では鋭い串での爪突き、逆さに吊り上げ、口や鼻に水をいれる水拷問、立つしか空間のない場所での拷問など、経験したことのない当時の残酷極まる状況を思い浮かべます。

刑務所では大豆・粟・玄米のご飯を刑にに応じて差をつけて出したとか、一日の大部分が労役で、しかも一三m²ぐらいに四〇〜五〇人もの人を詰め込む。独房は内部が二四時間光が入らない暗い部屋だったとか。購入した写真集を見ると詳しく記載してありました。

市民劇場の例会で観た日本語の強制使用や「創氏改名」、日本での治安維持法と特高による多喜二や日本共産党員への弾圧が頭をよぎります。驚いたのは獄舎の後方にハンセン病舎があること、人間として扱わないことに怒りが湧きました。

戦前、日本の政党で日本共産党が命をかけて朝鮮への植民地支配に激しく反対し、独立運動に連帯したからこそ、朝鮮王朝儀軌の返還運動を通して双方の交流が深まったことも理解できました。

平和運動との関わり

川崎 俊栄

私は、お寺に生まれ坊さんになるよう育まれました。中学卒業と同時に、本山身延山の高校と短期大学で、勉学と僧風教育に励み、初心的なことを学び、東京の僧門大学(立正大学)に進学。そこで学生中

心のサークル「プルナの会」に出会った。

終戦後一〇年、ようやく国民生活も向上しつつあったが、激動期の社会に苦しむ多くの国民に対して、既成仏教教団はアプローチする手段を見失っていた。

一九五四年三・一ビキニ水爆実験による第五福竜丸の被災を契機に、核兵器禁止の国民的要求の高揚のなか、日蓮宗は第二次世界大戦に積極的に協力したことを懺悔し、一九五五年に「原水爆禁止世界立正平和運動」を展開。他の教団になし得なかった平和運動を大胆に打ち出したことは、「立正安国」の日蓮聖人の精神を現代によみがえらせるものであった。

このような時代背景の中で「プルナの会」が結成され、会の実践課題は、

- ① 仏道の修行と佛教の研鑽
- ② 世界平和と人間の幸福の基礎を築く真の佛教精神の宣布
- ③ 社会科学の学習
- ④ 平和擁護と独立・民主・中立の日本をつくるための実践
- ⑤ 人間性尊重の新しい国民文化の創造
- ⑥ 信教の自由の擁護
- ⑦ 民衆の幸福と平和に寄与する教団の建設

以上七つの目標を掲げ実践活動をする。山梨県から出てきた若造には大変新鮮なものに見え即入会した。

原爆被爆者救援托鉢・安保改定反対の街頭行進の中で、日本山妙法寺をはじめ諸宗教の方々と共に行動するようになり、一九六一年第一回世界宗教者平

和会議が京都で開かれたとき、事務局員として会議の成功に務めた。翌年日本宗教者平和協議会が結成されその実践の中心になる。

特に一九六四年三・一ビキニデーの久保山氏の墓前祭は、原水爆禁止運動分裂の影響を受け開催が危ぶまれる状況となった。日本宗平協が主催を引き受けて以来、今日まで墓前祭を主催している。

その他アジア仏教徒平和会議・第二回国連軍縮特別総会百万人行動や、一九八三年広島平和公園において「いのちをえらびとる断食の祈り」に参加し今日に至る。

核兵器廃絶・軍備全廃・憲法九条を守る運動は各階層との連帯と協働を強め、真の平和の実現に努力しよう。

詩人会議かなざわ「独標」より

5センチの歩み

石川 あい

徘徊する母親の手を撫でる娘さん

手首から指先までを

ゆつくりと撫でる

毎秒五センチ

いちばん心地好い

速さだという

毎日毎日

ゆつくり ゆつくり

寄り添っている

いつのまにか

徘徊をやめ

ふだんのくらしに

わたしも試してみる

手首を出発

終点 指先までの小さな遊覧船は

ゆつくり 汽笛を鳴らす

「和定例会報」より

宿題「無理強い」

星 啓 選

佳作

国民の命を賭けた無理強い

林

舌の根が乾く前原発無理強い

茂明

無理強いに度に税金吊上る

大峰

無理強いはトモの証とまるめられ

林

再稼動電力値上と束にする

大峰

地位

原発で道路とハコを無理強いし

茂明

無理強いにイエス・サーしか言えぬ国

一杜

無理強いに消費増税財の糸

迷天使

無理強いに財界代行をする泥鰌

一杜

天位

米基地は動かすだけでカネせびる

迷天使

軸

再稼動大飯で突破と無理を強い

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

中山清子

こどもたちが安心して遊べる環境を



《非核平和・行事予定》

- ・五月二六日(出)一四時：市民本位の金沢市政をつくる会総会と記念講演「福島原発と原発ゼロへの道」：福島県浜通り医療生協理事長・近江町いちば館
- ・六月三日(回)一八時半～市民に開かれた憲法講座「自民党の憲法改正草案をみんなで読み解き考える」近江町交流プラザ四階研修室
- ・六月九日(出)一三時半：非核石川の会総会と講演「核兵器をめぐる世界の動きと地方の会の活動」講師：非核の政府を求める会事務室長斉藤俊一氏・近江町いちば館四階研修室
- ・六月九日(出)一三時半：輪島市革新懇総会と講演「自然エネルギーを考える」平野治和福井生協病院院長
- ・六月一〇日(回)一〇時半～一三時大飯を止めて原発ゼロに～さよなら志賀原発集会・主催「さよなら！志賀原発」実行委員会
- ・六月一〇日(回)一四時：第三回核兵器廃絶記念デー。「被ばく証言を聴く会&ウクライナの歌姫 ナターシャ・グジーコンサート」石川県教育会館三階ホール・主催核戦争を防止する石川医師の会
- ・六月一〇日(回)：核廃絶国民平和大行進輪島市出発
- ・六月一〇日(回)：石川県母親大会・県女性センター
- ・六月一〇日(回)：沖縄県議会議員選挙
- ・六月一六日(出)：核廃絶国民平和行進富山県から石川県へ・二四日(回)まで県内行進
- ・六月一七日(回)一四時：カンタータ「悪魔の飽食」第二三回全国縦断コンサート石川公演と森村誠一×池辺晋一郎両氏のトーク・主催：石川公演実行委員会・県立音楽堂コンサートホール
- ・六月二三日(出)：「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟」石川県本部総会・勤労者プラザ四〇六号室
- ・六月二三日(出)一四時：いしかわ自治体問題研究所例会「大阪からみる日本の未来―地方自治の破壊から国家改造へ」講師立命館大学政策科学部教授
- ・六月二四日(回)一四時：石川県平和委員会第四六回総会・石川県文教会館二〇二号室
- ・六月二五日(回)：非核の政府を求める会全国総会
- ・六月三〇日(出)二三時～一五時「秘密保全法の問題点」講師田島泰彦上智大学教授・金沢弁護士会・石川県教育会館
- ・七月一日(回)一三時：石川県社会保障推進協議会第一七回総会・記念講演「人間の復興か、資本の論理か三・一一後の日本」講師石川康宏神戸女学院大学教授・フレンドパーク
- ・七月一五日(回)一三時：野田淳子コンサート・金沢芸術村パフォーミングクエア・コンサート実行委員会
- ・七月二二日(出)一四時：一七時石川革新懇総会と講演・金沢市武蔵が辻・ITビジネスプラザ
- ・七月二二日(回)一〇時：反核・平和おりづる市民のつどい二〇一二・卯辰山平和の子ら像前広場
- ・八月三日(金)～二六日(木)：「原爆と人間展」パネル展・県庁一九階展望ロビー／主催反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会
- ・八月五日(回)一三時～一六時：横井久美子コンサート・金沢市民芸術村「マルチ工房」・五〇人限定・二千円・金沢うたごえの会
- ・八月六日(月)広島原爆投下の日・原水爆禁止世界大会
- ・八月九日(木)長崎原爆投下の日
- ・八月二四日(金)～二六日(回)：IPPNW第二〇回世界

大会：広島

・八月二五日(出)～二六日(回)日本母親大会・記念講演者藤貴男氏「三・一一以後私たちがどう生きるか」新潟市朱鷺メッセ・主催日本母親大会実行委員会

・八月二六日(回)一七時～一七時：第三回「九条の会」北陸ブロック交流会・講演高田健九条の会事務局長・福井市福井県教育センター

《編集室より》

◎カンタータ「悪魔の飽食」石川公演が六月一七日に迫っている。七三一部隊創設者の石井中将が学び、部隊の逃避行中に資料を隠した金沢での公演である。所縁の地での平和の歌声よ永久に響け。(ま)

◎本年四月から会報「非核・いしかわ」を県内全ての首長と議会事務局に送付している。石川の会での初めて実施した「非核・平和行政に関する県内自治体アンケート」の集計結果を付録として同封した。大阪や埼玉等の先進的な自治体施策と比べると十分なところが多い。今回のアンケート結果を県内自治体の平和行政の充実に役立てていただくことを期待したい。(か)

◎友達仲間と窪の竹林を借りて筒栽培をしている。今年の筒収穫は谷ウツギの花が咲き終了した。豊作年で毎朝六時から八時までの掘り作業だった。直腸手術のわが身、筒掘りは今年は無理と思っていたが、毎日竹林の登り下り躰の上げおろしで腸の動きが良くなり快調になった。運動が一番を実感している。(平)